

令和 7 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500688		
法人名	株式会社ライツベース		
事業所名	グループホームめぶきの社	ユニット名:ソメイ	
所在地	宮城県仙台市泉区将監十丁目11番1号		
自己評価作成日	令和 7年 9月 29日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 仙台MTビルEAST2階		
訪問調査日	令和 7年 11月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔がめぶく場所」を事業所のスローガンとし、「いつも笑顔と一緒に楽しむ気持ちを忘れずに。想いが伝わる・伝えられる関係性」をユニット目標としております。お一人おひとりの関わりを大切に、「その人と何が出来るか」という水平な関係性の中で、ご利用者が自分で選択したり、決定できるよう、「自分で決めて生活する権理」を心掛けながら一緒に生活しています。また、その方の残存能力を見極めながら、「できる事の継続」を応援し、充実した生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、仙台市泉区の北部、将監団地の一角に有る。周辺には公園等が有り自然に恵まれ、四季折々の風景が楽しめる環境にある。「笑顔がめぶく場所」をスローガンに職員も笑顔が絶えず、温かい雰囲気である。目標達成計画である「寝たきりの方や車椅子の方の外出」は、ホーム周辺の散歩や中庭で行われるバーベキューや芋煮会の参加等をしている。各ユニットとの連携が取れ、職員は両ユニットの入居者を把握し支援に当たっている。職員が外国籍職員とのコミュニケーションの橋渡しをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームめぶきの杜 )「ユニット名 ソメイ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・社是を念頭に置き日々従事しています。法人の理念・社是に基づく事業所スローガンを掲げ、年に2回管理者を中心とし、振り返りを行い、理念の共有や理解に向けた取り組みを実施しています。	「笑顔がめぶく場所」をスローガンにしている。職員は笑顔を絶やさず、入居者の一人ひとりの時間を大切にしながら笑顔を引き出し、寄り添い、楽しく生活出来る様、支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しています。回覧板などで地域の情報を収集しています。またご家族の面会も定期的にあります。また、月1回、地域包括支援センターや他事業所と共催している認知症カフェで地域の方と交流していました。	認知症カフェや近隣の公園、散歩等で地域の方との交流を図っている。近所の方から花や野菜等の差し入れ等がある。専門学校から実習生の受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の問い合わせの際や見学で直接訪問して下さった地域の方に対し、認知症についての対応方法や助言、相談には都度対応させていただきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や地域包括支援センターの職員、ご利用者、ご家族の方々にお集まりいただき、事業所の現状報告等の話し合いを行っています。いただいた意見はミーティング等を通じて職員間で共有し、改善に努めています。	地域包括職員、民生委員、町内会長が出席している。一人で外に出てしまう方の相談をし、靴に埋め込むGPSの紹介が有り、実行している。菜園にネギを一緒に植えると害虫が寄らなくなるとのアドバイスを受けた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センターの職員に参加いただき、取り組みの報告をするとともに、ご意見を頂戴しています。また、生活保護者についても区役所や社会福祉協議会と連携しながら支援を行っています。	区役所で、介護保険の更新や区分変更、生活保護者の情報提供等で関わりをもっている。地域包括センターとは、ホームの空き状況や介護保険の認定未定の方等の相談や連絡をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、法人として行わないことになっています。また、年4回、身体拘束防止委員会を開催するとともに、年2回、事業所内で勉強会を実施し、職員の理解を深めるようにしています。玄関は夜間以外は開放しており、チャイムセンサーを取り入れながら出入りを把握し、自由に外に出られる環境を整えています。	身体拘束委員会は年4回、職員の研修は年2回行っている。職員からグレーゾーンで困った事等を話し合っている。立ち上がれない方のベッドに行く対応が遅くなった等の事例をあげ、職員間で対策を話し合い身体拘束のないケアに努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内における勉強会を通して職員の理解と意識づけに努めるとともに、定期的に職員内で日々の関わり方について振り返りを行っています。また管理者は日頃から意識して職員とコミュニケーションを取るよう努めています。	虐待防止検討委員会は年2回で職員研修は年2回行っている。内出血が見られた場合は、その状況の原因を探りケアの内容を確認し職員間で共有し、虐待のないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中に、日常生活自立支援を利用されている方もおり、担当者との連絡や書類のやり取りも職員が行っているため、経験年数のある職員から新入職員へやりとりの仕方を教えるなど、実際の場で覚える機会があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人・ご家族へ契約書や重要事項などについて十分な説明をしています。不安や疑問点などを確認しながら説明を行い、理解・納得をいただいた上でサービス利用を開始できるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との電話連絡や面会時に日々のお話を通して意見や要望を集めるとともに、日頃からのご家族との信頼関係の構築に努めています。外出や外泊、外食の要望には感染対策等お願いし、歯科受診の要望、病院受診等も、ご家族と連携しながら対応しています。	面会時に様子を聞かれた場合は、職員誰もが対応出来る様にしている。通院を頼まれ、職員が対応した。救急搬送時、家族の希望を救急隊員に伝え対応した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面談を実施しています。また、アンケートやミーティングなどを通じて職員の意見を聞き、運営に反映できるように努めています。今年度は食器を新しく購入したり合同イベントの充実を図っています。	面談以外でも、常日頃話しやすい体制が有り、その場でも対応している。入居者の外出支援時に運転できない職員の為、ユニット間の職員を入れ替えた。寝た状態で洗髪が出来る道具の購入に応じた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を設け、自らが取り組んでいける仕組みがあります。(総合職や役職者へのチャレンジ)今年度は2名が取り組んでいます。また、ご利用者と一緒に企画を行ってもらうなど、職員がやりがいを持って主体的に働けるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修のほか、法人外の研修に関しては、職員の希望や能力に応じて自由に参加できるようにしています。新人育成に関してはプログラムに沿った「働きながらトレーニング」できる仕組みを設けています。今年度は実務者研修に1名、喀痰吸引等研修に1名参加しています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新人研修の他に中堅職員、役職者向けの勉強会にも参加しています。また必要に応じて、系列施設に配置されている専門職へ働きかけ、嚆下に関する知識や評価をもらったりする機会を設けています。	同法人の新人研修時、芋煮会やお菓子作り等で親しみやすい関係を作っている。地域包括主催の「認知症カフェ」や「地域ケア会議」で他事業所との交流がある。調剤薬局は、薬の飲み合わせの相談等をし、交流がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに、ご家族を含めた事前面談やご本人との事前面談を通じて、ご本人の想いや考えを聴取し、ご本人が安心してサービスの利用を開始できるように努めています。また信頼関係を構築できるよう心がけ、関わりを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、話し合いの場を多く持ち、見学や電話連絡を通じて、ご家族の感じている不安・悩み・要望等に耳を傾けるよう努めています。また、信頼関係構築を心がけてご家族との関わりをさせていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、利用していた施設や居宅介護支援事業所の職員などから情報収集を行い、必要としているサービスの見極めを行っています。新規入居の方について、近場の整形外科や精神科の専門医を受診したいとのご要望もあり、対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その日の体調を考慮しながら、ご本人がしたいことや長年行ってきた習慣を変えることなく行えるような環境を整え、メリハリを持った生活を送れるようにしています。調理作業や日々の買い物、掃除等、ご本人と一緒にしています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話でご本人の生活の様子を伝えたり、毎月、様子を伝える手紙と写真をお届けしています。必要時、こまめに連絡を取り、一緒にみていると思えるような関係性やご家族との絆を大切にしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問理美容の担当者とも親しくなり、皆さん楽しみにされています。また友人の来訪を受けたり、正月やお盆の際は、ご家族と親戚宅への外出やお墓参り、鳴子温泉への外泊、外食も楽しまれています。	家族や遠く離れている親族、職場の同僚が来訪している。ホーム内で親しくなり、居室でお茶飲みをしている方もいる。近隣の野菜等を差し入れる方も顔馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	表情や行動・言動から、ご利用者同士の関係性の把握に努め、食事の席や居場所に配慮しています。外出や行事を通じて、ご利用者同士で交流できる機会を設け、職員が間に入り、お互いの事を理解し合ったり繋がりが持てるよう関わっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居で退所されたご利用者のご家族と折に触れ、電話連絡を行ったり、事業所へ寄って下さったご家族と昔話をしたりと、ご家族だけでも遊びに来られる関係性もできました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話からご本人の想いを汲み取れるように配慮し、どんな些細なことでも知り得た情報を職員間で共有しています。自室で過ごすのが好きな方、他の入居者のお世話をしたい方、とにかく家事作業や調理で働きたい方等、一緒に行うことを大切にしています。	日常会話やテレビから話題を取り、思い等を聞いている。会話の難しい方は目の動きで把握している。食事のメニューは入居者の方と相談し、楽しい食事を心掛けている。外に出たい方には、ゴミ捨てを頼んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、利用されていた居宅介護支援事業所の職員から情報収集をし、バックグラウンドアセスメント表を活用して、その方の生活歴をホームでの生活に取り入れられるよう、支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできること・難しいことの把握を行い、できない所を補うように努めています。季節や心身の状態によって変化が見られるので、その際は生活記録や申し送り等で伝達しています。趣味の編み物や合唱、家事作業、仲間との交流等、個々の過ごし方を大切にしています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族にケアの意向を確認し、関係者でケアカンファレンスを開催し、介護計画を立てています。想いを上手く表現できない方については、情報収集に努め、ご本人の立場に立ち、何気ない言葉を聞き洩らさず、ご本人に確認しながら計画を作成しています。	家族には面会時や電話、メールで意向を聞いている。職員が日々の様子を記録ノートに記入し、毎月モニタリングで把握している。飲み込みが悪い方は刻み食に変更し、圧迫骨折の方は歩行器使用を計画書に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子について細かく記録し、間を置かず話し合い、ケアの工夫、ご本人の状態に変化があれば情報共有し、介護計画に反映させ、ケアを実践しています。食事形態や嚥下については都度関係機関への相談、見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望や状況に合わせ、買い物、通院、個別外出の対応を行っています。また、主治医よりリハビリなどの必要性が認められる場合は、医療デイケアの利用を実施しています。訪問歯科やマッサージ業者も新規入居の方が今まで同様に継続できるよう依頼していました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、回覧板等から情報を得ています。近隣の教会からは折に触れ、お花や果物をいただいたり、また地域の方より古タオル等をいただいています。歌のボランティアも来所されています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通り慣れたかかりつけ医との関係性を大切にしながら、ご家族の要望や状況に合わせて付き添い支援をしています。また、ご家族が受診の付き添いを行う時は受診報告書を作成し、病状や生活の様子をお伝えしています。希望により訪問歯科を受診することもできます。	往診医は月2回、訪問看護師は週2回、歯科は口腔ケアで月1回の訪問がある。緊急時は、電話で主治医の指示を受ける。皮膚科等の専門医の通院は、家族対応であるができない時は職員が対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々のご利用者に対する健康管理について、訪問看護ステーションとの連携を図り、急変や体調不良時は指示を仰いでいます。受診の報告や内服薬の変更時は、情報共有ノートに記入し、共有を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提出し、普段のご本人の様子を病棟の担当看護師にお伝えして、入院生活を安心して送れるよう関係づくりを行います。退院日が決定したら、病院相談員と連携し、退院に向けて準備を行い、入院中の状況等の情報は関係機関とユニット内で共有します。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に重度化した場合における指針の説明をしています。その場面においてご本人やご家族の意向を随時確認しながら、事業所のできる事を検討して対応を行います。その人らしく最期を迎えられるように日頃の関わりを大切に、ご家族からもご本人の昔話やご家族の想いを伺うようにしています。	食べられなくなった時に、家族に今後の事を相談をし自然体で過ごせるように支援している。家族は宿泊可能で最後を一緒に過ごせる様になっている。看取りの研修や心のケア等を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画を策定し、急変時の対応や事故発生時の応急手当の研修を行っています。また定期的に職員間で急変時の対応を再確認したり、日頃から新人職員に対し看護師や経験年数のある職員より対応について確認をしています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害時に冷静に対応できるように備えるとともに、災害時の備蓄品も確保しています。今後も運営推進会議等にて協力体制についての話し合いを行ってまいります。	年2回、夜間想定で実施している。廊下に歩けなくなった方の為に車椅子を準備している。肩掛けタンカもある。避難確認済の枕をドアの前に置くことにしている。反省点は次回で解決出来る様にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、その時々のご利用者に合った対応や声かけを行っています。対応については情報共有ノートで共有するとともに、間を置かず夕方の申し送り時等で振り返りの時間を設けています。	入居時に本人に確認し、名字や名前に「さん」付けである。職員は敬語で話すが、堅苦しくなく、砕けすぎないように注意を払っている。便秘気味の方に周りに聞こえない様「お腹、大丈夫」等の声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりや会話の中からご利用者の想いや希望を把握するように努めています。把握した希望に関しては、可能な限り実現できるように、必要に応じてご家族にも協力いただいています。茶の湯で着物が着たいとのご希望もあり、ご家族にご用意していただきました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間も個々の生活スタイルに合わせています。お風呂の時間をご本人と相談したり、家事作業をしたいとご希望のある方もおられるので、掃除や調理作業は見守りながら一緒に行っていただいています。午後からはおやつ作りやラジオ体操、外出等、ご希望に沿って実施しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	在宅時の写真を持参して頂き、その方が好まれていた髪型や服装、化粧品等も日頃から使用していたものをご持参いただいています。服装等一人で決められない方には、一緒に選び、身に付けていただいています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や主菜のご希望を適宜伺いながら献立を作成し、一緒に調理、片付けをしています。また、お誕生日にはご希望のメニューをお出しし、皆さんでお祝いをしたり、季節のものを取り入れています。定期的に食事メニューやおやつについての会議も開催し、取り入れています。	配食業者を利用し、一日1回は手作りの食事を提供している。入居者は、盛り付けや配膳等を一緒に行い、生き生きしている。中庭でバーベキューや芋煮を楽しみ、ノンアルコールビール等の提供もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行事食や主菜のご希望を適宜伺いながら献立を作成し、一緒に調理、片付けをしています。また、お誕生日にはご希望のメニューをお出しし、皆さんでお祝いをしたり、季節のものを取り入れています。定期的に食事メニューやおやつについての会議も開催し、取り入れています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕に関しては、その方の能力に応じた方法での口腔ケアを実施しています。口腔ケアの声掛け、義歯洗浄を支援しています。昼食後に関してはお一人お一人の生活習慣を考慮し、口腔ケアの声かけを行い対応しています。定期的に訪問歯科による、アドバイスや指導を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄サインや排泄のリズム、尿量も職員全員で把握し、お一人お一人に合ったパッドを選択しながら皮膚トラブルや使用量が最小限になるよう努めています。日中と夜間使用パッドも適宜合っているのか検討し、必要時変更しています。	排泄パターンを把握し、動作を見て「ちょっとよろしいですか」等の声掛けで誘導している。リハビリパンツやパッドのサイズ等を確認し、不快にならない様に支援している。夜はセンサー等で、起きた時に誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の副作用、食事量、運動、活動量、睡眠状況など日々の観察を行いながら原因を探し、個々の状況に応じた予防に努めております。薬だけに頼らず食事に野菜を多く取り入れ、便秘に良いといわれるオリーブオイルや乳製品等、意識して摂っていただいています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	一番風呂や夕方入浴等、可能な限り個人毎のご希望に添えるよう対応しています。また入浴剤や菖蒲湯、柚子湯の他、好きな歌謡曲、演歌を脱衣所で流していました。お風呂に入りたくないと話があった際は入浴日と時間を相談し、柔軟に対応しています。	週2回は入浴している。希望により、一番風呂や入りたい時に入浴ができる。お気に入りの職員との方もいる。浴槽用椅子がスライドでき、安心安全に入浴が出来る様になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は時間を決めてお昼寝の時間を設けたり、夜間不安が強く眠れない様子が見られる方には、傾聴し安心できるよう声掛けを行うと共に、温かい飲み物をご用意し、ホールで過ごしていただきながら、タイミングをみて居室へご案内しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表をファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしています。効能や副作用の他に医師からの注意点、助言があれば記載し、状態観察の指標の一つにしています。また大きな症状の変化等がないか観察を行い、気になることがあれば訪問看護や主治医に適宜相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	晩酌される方には、おつまみとビールをご用意しています。家庭菜園の希望もあり、玄関前と中庭で皆さんと一緒に一から野菜を育てています。収穫した野菜は分担しながら調理していました。他事業所訪問時に懐メロを歌いたいとお話があり、歌の練習の時間も設けています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を伺いながら少人数でのドライブ外出を実施しています。泉アウトレットやイオンモールへのご希望も聞かれました。また認知症カフェにも参加のご希望があったため、一緒に参加しています。その他、お墓参りや法事参加のご希望時はご家族と一緒に出掛けられました。	日常的にホームの周辺を散歩したり近隣の公園に行っている。食材等の買い出しに行く。花見に榴岡公園や東照宮、ひまわりの丘、紅葉を見に定義山等に行き、季節を感じている。回転ずしやハンバーガー等を食べに行く。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時よりご自分で財布を管理されている方もいます。外出時のおやつはご希望を伺いながら一緒に購入しています。わからないからと代わりにお支払いをお願いされた際は、値段とレシートを一緒に確認していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があった際には、ご家族や知人の方に電話できるように支援しています。遠方に住む娘様から折に触れお手紙が届く方もいます。また携帯電話をお持ちの方は、適宜ご家族や友人、親戚の方とやり取りをされています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご希望によりユーチューブからクラシックや懐かしの歌謡曲の動画をテレビ画面に写して鑑賞していただいています。居室前には表札を掲げ、見やすい位置にカレンダーを貼り、毎日日付の確認もしています。感染予防のため換気を頻繁に行っていますが、冷暖房は適宜調整しながら快適な温度を保つよう配慮しています。	ホームは明るく、加湿器で適度の室温が保たれている。ほとんどの方がホールで過ごしている。編み物をしている方やテレビに合わせて歌を歌っている方、洗濯物をたたんでいる方等に過ごしている。廊下には、笑顔の写真が有り楽しい様子がうかがわれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の性格や相性を考慮し、気の合う方同士でテーブルを囲み、一緒に過ごせる空間に配慮しています。ホール内やセミパブリックスペースに椅子やソファを置き、一人で過ごしたい方へも配慮しています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、今まで自宅で使用していた使い慣れたものをご持参いただいています。ご家族の写真や思い出の品、趣味の物等、いつでも見られるように飾っています。仏壇や冷蔵庫を設置している方もいます。	エアコンやベッド、クローゼット、洗面台、小物用タンスが設置されている。テレビや冷蔵庫、仏壇、椅子、テーブル等使い慣れた物を持ち込んでいる。コーヒーメーカーを持ち込み、コーヒーを振る舞っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置を工夫したり、居室ドアやトイレ等に表札等を設置して、それぞれの部屋がわかるように工夫しています。洗濯物干しもご利用者主体で選んで作業しやすいよう設置しています。ご本人の力を活用できるよう動線にも配慮し、個別に支援しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500688		
法人名	株式会社ライツベース		
事業所名	グループホームめぶきの杜	ユニット名:	ヨシノ
所在地	宮城県仙台市泉区将監十丁目11番1号		
自己評価作成日	令和 7年 9月29日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 仙台MTビルEAST2階		
訪問調査日	令和 7年 11月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔がめぶく場所」を事業所のスローガンとし、「皆が笑顔で、日々のあたりまえを大切に暮らせる場所にしよう!」をユニット目標としております。ご利用者、スタッフ共に一人ひとりの声に対し傾聴し、その方の個性を大切に、また自分の考えが発信できるような環境作りを一緒に実践しています。その方が実現したい事や決めた事について、話し合いをしながら調整し、「自分で決定し、生活する権利」を心掛けながら一緒に生活しています。また、その方の残存能力を見極めながら、「できる事の継続」を応援し、充実した生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、仙台市泉区の北部、将監団地の一角に有る。周辺には公園等が有り自然に恵まれ、四季折々の風景が楽しめる環境にある。「笑顔がめぶく場所」をスローガンに職員も笑顔が絶えず、温かい雰囲気である。目標達成計画である「寝たきりの方や車椅子の方の外出」は、ホーム周辺の散歩や中庭で行われるバーベキューや芋煮会の参加等をしている。各ユニットとの連携が取れ、職員は両ユニットの入居者を把握し支援に当たっている。職員が外国籍職員とのコミュニケーションの橋渡しをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状 態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援 をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安な く過ごしている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームめぶきの杜 )「ユニット名 ヨシノ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・社是を念頭に置き日々従事しています。法人の理念・社是に基づく事業所スローガンを掲げ、年に2回管理者を中心とし、振り返りを行い、理念の共有や理解に向けた取り組みを実施しています。	「笑顔がめぶく場所」をスローガンにしている。職員は笑顔を絶やさず、入居者の一人ひとりの時間を大切にしながら笑顔を引き出し、寄り添い、楽しく生活が出来る様、支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しています。回覧板などで地域の情報を収集しています。またご家族の面会も定期的にあります。また、月1回、地域包括支援センターや他事業所と共催している認知症カフェで地域の方と交流していました。	認知症カフェや近隣の公園、散歩等で地域の方との交流を図っている。近所の方から花や野菜等の差し入れ等がある。専門学校から実習生の受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の問い合わせの際や見学で直接訪問して下さった地域の方に対し、認知症についての対応方法や助言、相談には都度対応させていただきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や地域包括支援センターの職員、ご利用者、ご家族の方々にお集まりいただき、事業所の現状報告等の話し合いを行っています。いただいた意見はミーティング等を通じて職員間で共有し、改善に努めています。	地域包括職員、民生委員、町内会長が出席している。一人で外に出てしまう方の相談をし、靴に埋め込むGPSの紹介が有り、実行している。菜園にネギを一緒に植えると害虫が寄らなくなるとのアドバイスを受けた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センターの職員に参加いただき、取り組みの報告をするとともに、ご意見を頂戴しています。また、生活保護者についても区役所や社会福祉協議会と連携しながら支援を行っています。	区役所で、介護保険の更新や区分変更、生活保護者の情報提供等で関わりをもっている。地域包括センターとは、ホームの空き状況や介護保険の認定未定の方等の相談や連絡をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、法人として行わないことになっています。また、年4回、身体拘束防止委員会を開催するとともに、年2回、事業所内で勉強会を実施し、職員の理解を深めるようにしています。玄関は夜間以外は開放しており、チャイムセンサーを取り入れながら出入りを把握し、自由に外に出られる環境を整えています。	身体拘束委員会は年4回、職員の研修は年2回行っている。職員からグレーゾーンで困った事等を話し合っている。立ち上がれない方のベッドに行く対応が遅くなった等の事例をあげ、職員間で対策を話し合い身体拘束のないケアに努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内における勉強会を通して職員の理解と意識づけに努めるとともに、定期的に職員内で日々の関わり方について振り返りを行っています。また管理者は日頃から意識して職員とコミュニケーションを取るよう努めています。	虐待防止検討委員会は年2回で職員研修は年2回行っている。内出血が見られた場合は、その状況の原因を探りケアの内容を確認し職員間で共有し、虐待のないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中に、日常生活自立支援を利用されている方もおり、担当者との連絡や書類のやり取りも職員が行っているため、経験年数のある職員から新入職員へやりとりの仕方を教えるなど、実際の中で覚える機会があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人・ご家族へ契約書や重要事項などについて十分な説明をしています。不安や疑問点などを確認しながら説明を行い、理解・納得をいただいた上でサービス利用を開始できるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との電話連絡や面会時に日々のお話を通して意見や要望を集めるとともに、日頃からのご家族との信頼関係の構築に努めています。外出や外泊、外食の要望には感染対策等お願いし、歯科受診の要望、病院受診等も、ご家族と連携しながら対応しています。	面会時に様子を聞かれた場合は、職員誰もが対応出来る様にしている。通院を頼まれ、職員が対応した。救急搬送時、家族の希望を救急隊員に伝え対応した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面談を実施しています。また、アンケートやミーティングなどを通じて職員の意見を聞き、運営に反映できるように努めています。今年度は食器を新しく購入したり合同イベントの充実を図っています。	面談以外でも、常日頃話しやすい体制が有り、その場でも対応している。入居者の外出支援時に運転できない職員の為、ユニット間の職員を入れ替えた。寝た状態で洗髪が出来る道具の購入に応じた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を設け、自らが取り組んでいける仕組みがあります。(総合職や役職者へのチャレンジ)今年度は2名が取り組んでいます。また、ご利用者と一緒に企画を行ってもらうなど、職員がやりがいを持って主体的に働けるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修のほか、法人外の研修に関しては、職員の希望や能力に応じて自由に参加できるようにしています。新人育成に関してはプログラムに沿った「働きながらトレーニング」できる仕組みを設けています。今年度は実務者研修に1名、喀痰吸引等研修に1名参加しています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新人研修の他に中堅職員、役職者向けの勉強会にも参加しています。また必要に応じて、系列施設に配置されている専門職へ働きかけ、嚥下に関する知識や評価をもらったりする機会を設けています。	同法人の新人研修時、芋煮会やお菓子作り等で親しみやすい関係を作っている。地域包括主催の「認知症カフェ」や「地域ケア会議」で他事業所との交流がある。調剤薬局は、薬の飲み合わせの相談等をし、交流がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに、ご家族を含めた事前面談やご本人との事前面談を通じて、ご本人の思いや考えを聴取し、ご本人が安心してサービスの利用を開始できるように努めています。また信頼関係を構築できるよう心がけ、関わりを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、話し合いの場を多く持ち、見学や電話連絡を通じて、ご家族の感じている不安・悩み・要望等に耳を傾けるよう努めています。また、信頼関係構築を心がけてご家族との関わりをさせていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、利用していた施設や居宅介護支援事業所の職員などから情報収集を行い、必要としているサービスの見極めを行っています。新規入居の方について、近場の整形外科や精神科の専門医を受診したいとのご要望もあり、対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その日の体調を考慮しながら、ご本人がしたいことや長年行ってきた習慣を変えずに行えるような環境を整え、メリハリを持った生活を送れるようにしています。調理作業や日々の買い物、掃除等、ご本人と一緒にしています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話でご本人の生活の様子を伝えたり、毎月、様子を伝える手紙と写真をお届けしています。必要時、こまめに連絡を取り、一緒にみていると思えるような関係性やご家族との絆を大切にしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問理美容の担当者とも親しくなり、皆さん楽しみにされています。また友人の来訪を受けたり、正月やお盆の際は、ご家族と親戚宅への外出やお墓参り、定期的に外食も楽しんでいます。	家族や遠く離れている親族、職場の同僚が来訪している。ホーム内で親しくなり、居室でお茶飲みをしている方もいる。近隣の野菜等を差し入れる方も顔馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	表情や行動・言動から、ご利用者同士の関係性の把握に努め、食事の席や居場所に配慮しています。外出や行事を通じて、ご利用者同士で交流できる機会を設け、職員が間に入り、お互いの事を理解し合ったり繋がりが持てるよう関わっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居で退所されたご利用者のご家族と折に触れ、電話連絡を行ったり、事業所へ寄って下さったご家族と昔話をしたりと、これまでと変わらない関係性が続いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話からご本人の想いを汲み取れるように配慮し、どんな些細なことでも知り得た情報を職員間で共有しています。ご利用者の皆さんと歌ったり、編み物をした方、とにかく家事作業や調理で働きたい方等、一緒に行くことを大切にしています。	日常会話やテレビから話題を取り、思い等を聞いている。会話の難しい方は目の動きで把握している。食事のメニューは入居者の方と相談し、楽しい食事を心掛けている。外に出たい方には、ゴミ捨てを頼んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、利用されていた居宅介護支援事業所の職員から情報収集をし、バックグラウンドアセスメント表を活用して、その方の生活歴をホームでの生活に取り入れられるよう、支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできること・難しいことの把握を行い、できない所を補うように努めています。季節や心身の状態によって変化が見られるので、その際は生活記録や申し送り等で伝達しています。趣味の編み物や合唱、家事作業、仲間との交流等、個々の過ごし方を大切にしています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族にケアの意向を確認し、関係者でケアカンファレンスを開催し、介護計画を立てています。想いを上手く表現できない方については、情報収集に努め、ご本人の立場に立ち、何気ない言葉聞き流さず、ご本人に確認しながら計画を作成しています。	家族には面会時や電話、メールで意向を聞いている。職員が日々の様子を記録ノートに記入し、毎月モニタリングで把握している。飲み込みが悪い方は刻み食に変更し、圧迫骨折の方は歩行器使用を計画書に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子について細かく記録し、間を置かず話し合い、ケアの工夫、ご本人の状態に変化があれば情報共有し、介護計画に反映させ、ケアを実践しています。食事形態や嚥下については都度関係機関への相談、見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望や状況に合わせ、買い物、通院、個別外出の対応を行っています。また、主治医よりリハビリなどの必要性が認められる場合は、医療デイケアの利用を実施しています。訪問歯科やマッサージ業者も必要時に適宜依頼していました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、回覧板等から情報を得ています。近隣の教会からは折に触れ、お花や果物をいただいたり、また地域の方より古タオル等をいただいています。歌のボランティアも来所されています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通い慣れたかかりつけ医との関係性を大切にしながら、ご家族の要望や状況に合わせて付き添い支援をしています。また、ご家族が受診の付き添いを行う時は受診報告書を作成し、病状や生活の様子をお伝えしています。希望により訪問歯科を受診することもできます。	往診医は月2回、訪問看護師は週2回、歯科は口腔ケアで月1回の訪問がある。緊急時は、電話で主治医の指示を受ける。皮膚科等の専門医の通院は、家族対応であるができない時は職員が対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々のご利用者に対する健康管理について、訪問看護ステーションとの連携を図り、急変や体調不良時は指示を仰いでいます。受診の報告や内服薬の変更時は、情報共有ノートに記入し、共有を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提出し、普段のご本人の様子を病棟の担当看護師にお伝えして、入院生活を安心して送れるように関係づくりを行います。退院日が決定したら、病院相談員と連携し、退院に向けて準備を行い、入院中の状況等の情報は関係機関とユニット内で共有します。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に重度化した場合における指針の説明をしています。その場面においてご本人やご家族の意向を随時確認しながら、事業所のできる事を検討して対応を行います。その人らしく最期を迎えられるように日頃の関わりを大切に、ご家族からもご本人の昔話やご家族の想いを伺うようにしています。	食べられなくなった時に、家族に今後の事を相談をし自然体で過ごせるように支援している。家族は宿泊可能で最後を一緒に過ごせる様になっている。看取りの研修や心のケア等を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画を策定し、急変時の対応や事故発生時の応急手当の研修を行っています。また定期的に職員間で急変時の対応を再確認したり、日頃から新人職員に対し看護師や経験年数のある職員より対応について確認をしています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害時に冷静に対応できるように備えるとともに、災害時の備蓄品も確保しています。今後も運営推進会議等にて協力体制についての話し合いを行ってまいります。	年2回、夜間想定で実施している。廊下に歩けなくなった方の為に車椅子を準備している。肩掛けタンカもある。避難確認済の枕をドアの前に置くことにしている。反省点は次回で解決出来る様にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、その時々のご利用者に合った対応や声かけを行っています。対応については情報共有ノートで共有するとともに、間を置かず夕方への申し送り時等で振り返りの時間を設けています。	入居時に本人に確認し、名字や名前に「さん」付けである。職員は敬語で話すが、堅苦しくなく、砕けすぎないように注意を払っている。便秘気味の方に周りに聞こえない様「お腹、大丈夫」等の声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりや会話の中からご利用者の想いや希望を把握するように努めています。把握した希望に関しては、可能な限り実現できるように、必要に応じてご家族にも協力いただいています。茶の湯の開催やお花見等、ご希望に沿ったイベントも一緒に計画し実施していました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間も個々の生活スタイルに合わせています。お風呂の時間をご本人と相談したり、家事作業をしたいとご希望のある方もおられるので、掃除や調理作業は見守りながら一緒に行っていただいています。午後からはおやつ作りやラジオ体操、外出等、ご希望に沿って実施しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	在宅時の写真を持参して頂き、その方が好まれていた髪型や服装、化粧品等も日頃から使用していたものをご持参いただいています。服装等お一人で決められない方には、一緒に選び、身に付けていただいています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や主菜のご希望を適宜伺いながら献立を作成し、一緒に調理、片付けをしています。また、お誕生日にはご希望のメニューをお出し、皆さんでお祝いをしたり、季節のものを取り入れています。定期的に食事メニューやおやつについての会議も開催し、取り入れています。	配食業者を利用し、一日1回は手作りの食事を提供している。入居者は、盛り付けや配膳等を一緒に行い、生き生きしている。中庭でバーベキューや芋煮を楽しみ、ノンアルコールビール等の提供もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の疾病や体重を考慮し、必要時は栄養士に相談をし、食事や水分量の調整を行っています。状況に合わせて食事形態を変えたり、その方の好きな飲み物を提供し、水分量が確保できるように努めています。補食も個人毎に検討しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕に関しては、その方の能力に応じた方法での口腔ケアを実施しています。口腔ケアの声掛け、義歯洗浄を支援しています。昼食後に関してはお一人お一人の生活習慣を考慮し、口腔ケアの声かけを行い対応しています。定期的に訪問歯科による、アドバイスや指導を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄サインや排泄のリズム、尿量も職員全員で把握し、お一人お一人に合ったパッドを選択しながら皮膚トラブルや使用量が最小限になるよう努めています。日中と夜間使用パッドも適宜合っているのか検討し、必要時変更しています。	排泄パターンを把握し、動作を見て「ちょっとよろしいですか」等の声掛けで誘導している。リハビリパンツやパッドのサイズ等を確認し、不快にならない様に支援している。夜はセンサー等で、起きた時に誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の副作用、食事量、運動、活動量、睡眠状況など日々の観察を行いながら原因を探し、個々の状況に応じた予防に努めております。薬だけに頼らず食事に野菜を多く取り入れ、便秘に良いといわれるオリーブオイルや乳製品等、意識して摂っていただいています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	一番風呂や夕方の入浴等、可能な限り個人毎のご希望に添えるよう対応しています。また入浴剤や菖蒲湯、柚子湯の他、好きな歌謡曲、演歌を脱衣所で流していました。お風呂に入りたくないと話があった際は入浴日と時間を相談し、柔軟に対応しています。	週2回は入浴している。希望により、一番風呂や入りたい時に入浴ができる。お気に入りの職員との方もいる。浴槽用椅子がスライドでき、安心安全に入浴が出来る様になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は時間を決めてお昼寝の時間を設けたり、夜間不安が強く眠れない様子が見られる方には、傾聴し安心できるよう声掛けを行うと共に、温かい飲み物をご用意し、ホールで過ごしていただきながら、タイミングをみて居室へご案内しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表をファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしています。効能や副作用の他に医師からの注意点、助言があれば記載し、状態観察の指標の一つにしています。また大きな症状の変化等がないか観察を行い、気になることがあれば訪問看護や主治医に適宜相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	晩酌される方には、おつまみとビールをご用意しています。家庭菜園の希望もあり、玄関前と中庭で皆さんと一緒に一から野菜を育てています。収穫した野菜は分担しながら調理していました。他事業所訪問時に懐メロを歌いたいとお話があり、歌の練習の時間も設けています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を伺いながら少人数でのドライブ外出を実施しています。泉アウトレットやイオンモールへのご希望も聞かれました。また認知症カフェにも参加のご希望があったため、一緒に参加しています。その他、お墓参りや法事参加のご希望時はご家族と一緒に出掛けられました。	日常的にホームの周辺を散歩したり近隣の公園に行っている。食材等の買い出しに行く。花見に榴岡公園や東照宮、ひまわりの丘、紅葉を見に定義山等に行き、季節を感じている。回転ずしやハンバーガー等を食べに行く。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時よりご自分で財布を管理されている方もいます。外出時のおやつはご希望を伺いながら一緒に購入しています。わからないからと代わりにお支払いをお願いされた際は、値段とレシートを一緒に確認していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があった際には、ご家族や知人の方に電話できるように支援しています。遠方に住む娘様から折に触れお手紙が届く方もいます。また携帯電話をお持ちの方は、適宜ご家族や友人、親戚の方とやり取りをされています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご希望によりユーチューブからクラシックや懐かしの歌謡曲の動画をテレビ画面に写して鑑賞していただいています。居室前には表札を掲げ、見やすい位置にカレンダーを貼り、毎日日付の確認もしています。感染予防のため換気を頻繁に行っていますが、冷暖房は適宜調整しながら快適な温度を保つよう配慮しています。	ホームは明るく、加湿器で適度の室温が保たれている。ほとんどの方がホールで過ごしている。編み物をしている方やテレビに合わせて歌を歌っている方、洗濯物をたたんでいる方等に過ごしている。廊下には、笑顔の写真が有り楽しい様子がうかがわれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の性格や相性を考慮し、気の合う方同士でテーブルを囲み、一緒に過ごせる空間に配慮しています。ホール内やセミパブリックスペースに椅子やソファを置き、一人で過ごしたい方へも配慮しています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、今まで自宅で使用していた使い慣れたものをご持参いただいています。ご家族の写真や思い出の品、趣味の物等、いつでも見られるように飾っています。仏壇や冷蔵庫を設置している方もいます。	エアコンやベッド、クローゼット、洗面台、小物用タンスが設置されている。テレビや冷蔵庫、仏壇、椅子、テーブル等使い慣れた物を持ち込んでいる。コーヒーマーカーを持ち込み、コーヒを振る舞っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置を工夫したり、居室ドアやトイレ等に表札等を設置して、それぞれの部屋がわかるように工夫しています。洗濯物干しもご利用者主体で選んで作業しやすいよう設置しています。ご本人の力を活用できるよう動線にも配慮し、個別に支援しています。		